

北部地域整備対策特別委員会行政視察（概要）

1 視察日

平成29年10月19日（木）～20日（金）

2 視察項目（視察都市）

・浦山ダムについて（埼玉県秩父市）

3 参加委員

委員長：中内清孝、副委員長：篠原一代

委員：朝田 充、小林美智子、萩原 佳、下野 巖、稲葉通宣、河本光宏

4 調査概要

浦山ダムは、平成11年に完成した重力式コンクリートダムで、提高156メートル、堤頂長372メートル、堤体積175万立法メートル、総貯水容量5,800万立法メートルとなる中規模程度のダムとして位置付けられている。

ダムの機能としては、洪水調整と都市用水や流水の正常な機能維持のための利水補給だけでなく、水力発電としての機能も有しており、年平均1万3,200メガワット（約3,300世帯が1年間に使用する電力に相当する）を発電する。

また、その特徴は、平成4年度に国が創設した「地域に開かれたダム」の指定を受け、当初より一般公開を前提とし、ダムを観光地の一つとして位置付けて環境整備を行ってきた点にある。これにより、浦山ダムでは、堤体内部を自由に見学でき、平成28年度の団体利用による見学申込実績は5,212人となっている。また、地元商工会等と協働して様々なイベントを開催するとともに、平成28年にオープンした防災資料館「うららびあ」を有効活用することで、多くの来訪者を呼び込み、近年では、映画やドラマのロケ地としても活用されている。



5 委員長所感

浦山ダムは、首都圏の中を縦断する荒川の上流にあり、治水、利水、発電に貢献している多目的ダムであり、安威川ダムとは、型式や規模が異なるが、ダム直下に秩父市街地が広がる都市近郊型ダムとして共通点を見出すことができた。

特徴としては、地域と調和し、ともに歩んで行きたいという願いから、水と緑のオープンスペースとしてダム湖を開放し、また、国における「地域に開かれたダム」の指定を受け、周辺整備等に地域の声を取り入れるなど、魅力あるダムづくりを目指しており、今後、安威川ダムにおけるダム湖周辺整備の参考にしていきたい。